

# 正確であることの美しき

木村 井 眞

学生の間、ウァレリーの「テスト氏」という小品を讀んだときに覺えた感動を、ほくは今でも忘れることができない。それは、厳密であらうという強いにとりつかれたハトリの男を描いているのだが、ほくはそこにある、きびしく、静かな、澄みきつた世界によつて、一種の陶眼を経験した。それ以来、音楽にとつて最も大切なことは、何よりも正確であるということだ、と心得るようになった。文章にせよ、造形美術にせよ、音楽にせよ、あるいは思想にせよ、さういふ正確さのないところに、または正確であらうとする誠意のないところに、一体、私を感動させるようなものがあるだろうか。正確であるとするのは、高度の精神の緊張と集中を要求する。さういふ人間的な精神のいとみなみこそ、はじめにひとの心に静かに力強く語りかけるものを生み出すのだと思ふ。

合唱の場合それは音—むろん音の高低ばかりでな

く、強弱、長短、しかるべき音色、出だしや終りの瞬間など—をただけ正確に表現するか、自分の声と他の声々との間のハーモニーをただけ正確に生み出すか、という努力をとおして、はじめにその音楽の心を正確に再創造することができるのではなからうか。それは限りない研鑽を要求する。1/10秒の手札と1/100秒に、40音の誤差を100音にちぢめえたものはさらに1/1000、1/10000の厳密さによる到達しようとする。さうして、正確であらうとする努力は、思いあがることを許さず、自分の声に自分で陶酔しているようになりまを分えず、限りなくひとを謙虚ならしめる。さういふ厳しさをこそ人間を立止し、しかも一見窮乏とみえる制約に徹底的に自分を服せしめようとする努力こそ、えがたい真実と自由とをわれわれに体験させてくれるのだと思ふ。さういふ共同作業をとおして生まれるお互いへの思いやり、心と心との

共感、一つの共同体としての自覚、それはこの嘗懐とした現代にあって、どれほど貴い宝であることか。そのような共同体のうたう歌こそ、さういふものに人間であることの限りない感動をよびおこさういふことはないだらう。

## 才5回 バツハセミナール報告

10月28日(月)午後6時美術家会館ホール

止社一講師才2回のお説は、オルガン作品におけるツールの陶眼、カンタータの合唱声部をオルガンにうつしてそのまま録曲したようなもの(シンフォニー、コラール、オルガン、BWV 685)から一つのコラール・メロディによる大かきりなカインの手法による変奏曲(高き)さらより変奏曲 BWV 789)にいたるまでを、多数の作品例によつて学んだ。バツハが、晩年になるほど合理的な創作態度に傾いてゆき、それにつれてまた出来あがった作品が神妙主義的な色彩を帯びてくるという一貫性で、人間の創造力の極限までのほうりつめられた状態さういふもの、五バツハがその全生涯、全作品をもつて私たちに啓示してくれている。その偉大さに、あらためて強ううたれた。さうして、同好の友が集つて、徐々にではあるが、よき

# 碓氷峠―浅間牧場

S4 松本京子

急行列車を降りたところに冷たい風がほそほそ吹かす  
 みた。10月5日、20時20分、オズカルーフ5人は  
 碓氷峠より碓氷山荘へと真暗な中を車に向い、  
 ハットライトは照らされて、山路には時々野うさぎ  
 が姿を見せた。

ク分ばかり走ったところに、一寸いまして、明々と  
 電燈のついた家が見えた。何の昔、おときはなしの  
 袋帯をみたような、奥深い森の中にそびえ立つ美  
 しい城―そんな錯覚にとらわれたような気持で  
 車を降りる。にぎやかなオズカルーフの声に迎えられる。ママ(この旅行の幹事の小山嬢、一人ではりきってこ  
 たりで、こようよはれた)の火して下ったお茶をのみな  
 かり、軽井沢駅前の油屋にお祈りに仕入れた取寄で  
 はらこしらすを、自己紹介の後、合席。あまり上手とは  
 言えなかったが、秋の夜長を皆で声さうかに楽しむは  
 よし。秋の虫たちも、われわれの秋にききいて、(こ)  
 静かにしているようだった。

22時、大きな子供たちかねむくならうたで自由時  
 間とする。山小屋の煙が目にしみる中をお互いに

入るものあり。23時後前川氏(1人お到着)を迎えて  
 いれて、皆それぞれ食べるもの飲むものを持ちよう  
 又々、談に花が咲く。

24時をすぎたころ、1人去り、2人去りして  
 込んだ人少くなり、ついに徹夜組は3人。坂本ツツ  
 ク長、ホンサン、箕浦氏。起床時間盛りになり  
 きたのは一人私(これは必死に記しておきたいこと)。  
 もやかたろこめ冷たとしたら日の朝を迎える。  
 朝食はサンドイッチとミス、全女性働きの土と  
 に昼食のおわすびを作る。皆、自主的に働いて  
 気持ち良かった。

9時半、山荘にさよならをして展望台に向う。  
 懐い霧のため何も見えず、口中のお天気悪しと  
 心配されたが、旧軽井沢まで歩いてバスに乗、ここら  
 は、お日様もだんだんと顔を出し、正午に着い  
 た目的地の浅間牧場では最良の陽気となる。  
 都会の混雑と緊張から逃げ切って、オオ、マイスカイ  
 とばかり、それぞれ草席に横こす。すすまの  
 中をのみわけ、りんどうやワレモユブにあいさつ

し、紅や黄の葉っぱを集める。遠くに見える放  
 牧の牛や馬の姿ものどか。

15時半後、自然になじりをおいんで帰途につく。  
 車中はこんでいたが一本登り、トラップに響く  
 もの。秋のものあり。21時30分上野着。少し  
 疲れたようであったが、たのしい秋の日を野外で  
 すごし、お互いに親睦を深めたことは、今後の  
 合唱団発展のために大きな収穫であったと思  
 います。(参考者が大はばに減ったものゝすから)

参加者

森井恵美子

A 小山、松本、鈴木、木村、内田

B 坂本、小林、島田、豊島、田代

C 箕浦、黒沼地、西村

D 山下、若山、山本、前川

団員外 木村 剣

(片寄)

団員名簿追加

S19 若川 恒子 (4クルーフ)

バツハ合唱団才一練習場変更

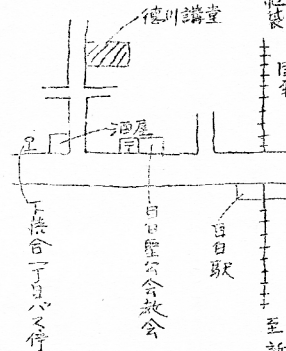
月曜の練習は、11月4日以降左記の会場に変更

徳川講堂 豊島区目白町4の42 Tel 971-1022

バツハセミナールも同会場で行います。日曜の練習は従来通り

森井恵美子宅 世田谷区上北沢1の241 Tel 322-1950

至新宿



(目白駅より徒歩5分)  
(下橋合丁目白交番1分)

11月行事

4日(日) 午後5時〜5時 例会

19日(火) 鈴木正久牧師宅で「クリスマス・オラトリオ」

「ソングを聴く」午後6時、お茶の水駅

神田新町「改札口集合」

又は直接鈴木牧師宅へ

25日(月) 才三四バツハセミナール

午後6時 徳川講堂 辻荘一講師

28日(木) 東横「カンシタ」の夕シを聴く

午後7時 東京都文化会館

10月出席統計

|   | 6-7 | 13-14 | 20-21 | 27-28 | 平均   |
|---|-----|-------|-------|-------|------|
| S | 12  | 13    | 11    | 10    | 11.5 |
| A | 14  | 12    | 13    | 12    | 12.8 |
| T | 8   | 8     | 8     | 7     | 8    |
| B | 7   | 8     | 8     | 7     | 7.5  |
| 計 | 41  | 41    | 40    | 36    | 39.8 |

(7月)

ホル代補助 8000  
6月セミナール 1600  
9600

(支出内訳)

収入 12000  
支出 37400  
才三四半期より  
-112940

(9月)

後援会印刷費 5000  
9月セミ補助 800  
講師謝礼 2000  
ホル代補助 20000  
27800

差引不足  
-138340

才三四半期 後援会会計報告

|         | 7月          | 8月          | 9月          |
|---------|-------------|-------------|-------------|
| 前月からの繰越 | 670         | 6130        | 2170        |
| 収入      |             |             |             |
| 団費      | (37) 16,650 | (35) 15,750 | (37) 16,650 |
| 入団金     | (8) 2,400   | (2) 600     | (6) 1,800   |
| 計       | 19,720      | 22,480      | 20,620      |
| 支出      |             |             |             |
| 謝礼      | 5,000       | 5,000       | 5,000       |
| 編集費     | 1,500       | 900         | 800         |
| お菓子代    | 800         | 1,730       | 1,000       |
| 備品・事務費  | 2,860       | 3,500       | 3,100       |
| ホル代補助   | 0           | 7,000       | 8,400       |
| 通信費     | 3,430       | 2,180       | 2,140       |
| 計       | 13,590      | 20,310      | 20,440      |
| (残額)    | 6,130       | 2,170       | 180         |

才三四半期合唱団会計報告

◎ 後援会に入会いただいた方(10月)  
斉藤 信様

道先輩内の方々を得て、パツハの音楽に一寸々と近づいてゆくことは、どんな大学の講座にもまさって充実した学習であり、よろこびであることをご理解いただければ幸いです。

(出席者 43名)

○ 12月定期演奏会について

◇日時・場所・その他 演奏会のちらいを参照

◇ 団員への注意

○ 合唱出演者(出演不可能になった場合はなるべく早く森井に届け出て下さい)

S 小山・高橋・杉本・鈴木・松崎・福湯・新井

佐竹・田代・本林・秋葉・内田・荒川 (13名)

A 坂本・竹田・長谷川・秀村・山村・杉本・森

津上・小林善・井口上田・島田・齋藤

車谷・小林玲・島田悦 (16名)

T 加藤・堀・笹神・齋藤・黒肥地・西村

赤羽・小林・沢田・仲島 (10名)

B 小笹・山下・若山・山本・佐々木・後藤

斎藤・植村・飯島・佐藤辰・前川 (11名)

計 30名

○ 練習日程(白・月)の練習(他)

12月6日(金) 午後6時～8時半

カネ・プロ 立教大学礼拝堂

12月7日(土) 午後3時 立教大学礼拝堂

○ 服装 男性 黒か紺色ジャケット 白ワイシャツ

女性 制服(服装品はつけぬこと) 靴はなるべく踵の低い安定したもの

○ 楽譜 当日の楽譜を楽譜で揃えたいので練習の時はワザと見せておくにしてください

○ プログラムは11月10日(15日頃)出まると予定

○ プログラムは11月10日(15日頃)出まると予定

○ プログラムは11月10日(15日頃)出まると予定

○ プログラムは11月10日(15日頃)出まると予定

○ プログラムは11月10日(15日頃)出まると予定

○ プログラムは11月10日(15日頃)出まると予定

○ プログラムは11月10日(15日頃)出まると予定

東京バロック音楽協会主催 演奏会

公演について

○ 12月22・23日午後7時 東京文化会館小ホール

○ フォトリウス・パツハ作品 4曲

○ 出演者数 30名

○ 練習日程

11月13日(水)、20日(水)、22日(金)

午後6時～8時半 徳川講堂(全員出席)

この向学予定者でも欠席を重ねたものは皆出席の人と交替してもらうこととなります

12月9日(月)午後6～9時 徳川講堂(全員)

16日(月) シ

17日(火) シ (以後は出演者のみ)

20日(金) 午後6時 東京文化会館Aリハールーム

22日(日) 東京文化会館小ホール

正確な集合時刻は決定ですが、午後はなるべく明けをおいて下さい

23日(月) 東京文化会館小ホール

午後6時集合

(12月9日から毎週オーケストラ・ワグネルと合同練習)

○ 指揮 金子 登氏

○ 服装 12月7日定期演奏会と同じ

○ 初の演奏ですゆ、よく気を配って、他の演奏者たちとの心・態度・雰囲気の調和を保って下さるようには、おとおせす、どっしりと

のゆやかにふるまって下さい、これを期します

○ 欠席しない団員は、原則として23日にきくこととなります